



## **ASFALIS TransServer**

### インストールガイド

2020年 11月

株式会社エリジオン

# 目次

1. 概要	1
1.1. はじめに	1
1.1.1. ネットワーク構成	1
1.1.2. サーバおよびクライアントのシステム要件	2
1.2. ライセンス管理プログラムの導入	3
2. 導入手順	4
2.1. 新規インストール	4
2.1.1. 共有ネットワークフォルダの設定	4
2.1.2. .NET Frameworkの導入	5
2.1.3. スレーブノードの導入、設定	6
2.1.4. PostgreSQLの導入、設定	7
2.1.5. ASFALIS TransServerの導入、設定	8
2.1.6. 複数のスレーブノードの導入	20
2.2. アップグレードインストール	21
2.2.1. インストール前の注意事項	21
2.2.2. ASFALIS TransServerの導入、設定	22
2.2.3. データベースの削除方法	25
2.3. インストール後の設定変更	25
2.3.1. アプリケーションサーバのインスタンス数変更方法	25
2.3.2. リソースの保存フォルダ変更方法	25
2.3.3. ライセンスサーバの変更方法	26
2.3.4. 共有ネットワークフォルダの変更方法	26
3. 起動手順	28
3.1. スレーブノード	28
3.2. ASFALIS TransServer	28
4. 起動後の設定	30
4.1. サーバ設定	30
5. 終了手順	31
5.1. ASFALIS TransServer	31
5.2. スレーブノード	31
6. アンインストール	32
6.1. ASFALIS TransServer	32
6.2. スレーブノード	32

Appendix A: 複数のスレーブノードの導入 .....	33
A.1. 複数のスレーブノードの導入 .....	33
A.2. 1台の端末に複数のスレーブノードを導入 .....	33
Appendix B: トラブルシューティング .....	34

# 1. 概要

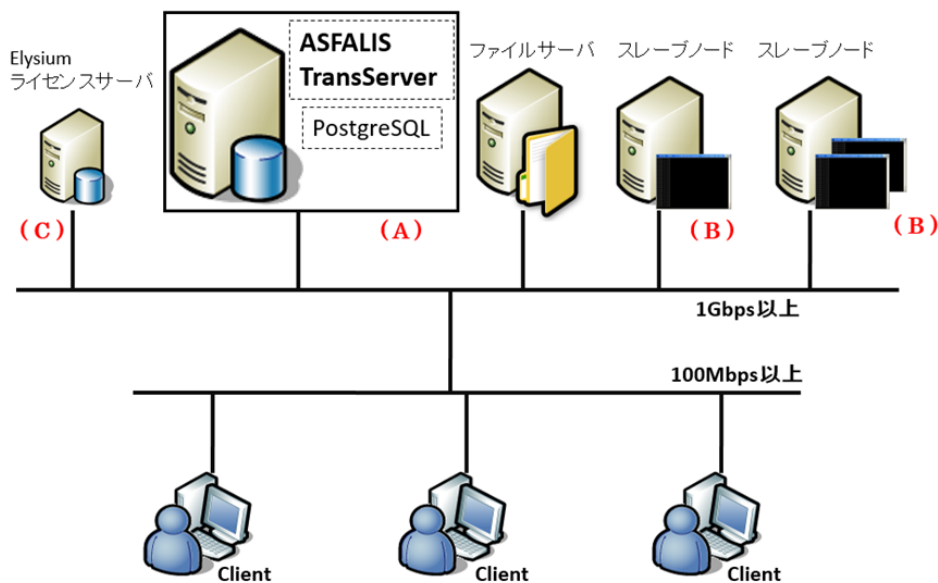
## 1.1. はじめに

このマニュアルでは、ASFALIS TransServerのシステム管理者を対象として、システムの導入手順を説明しています。

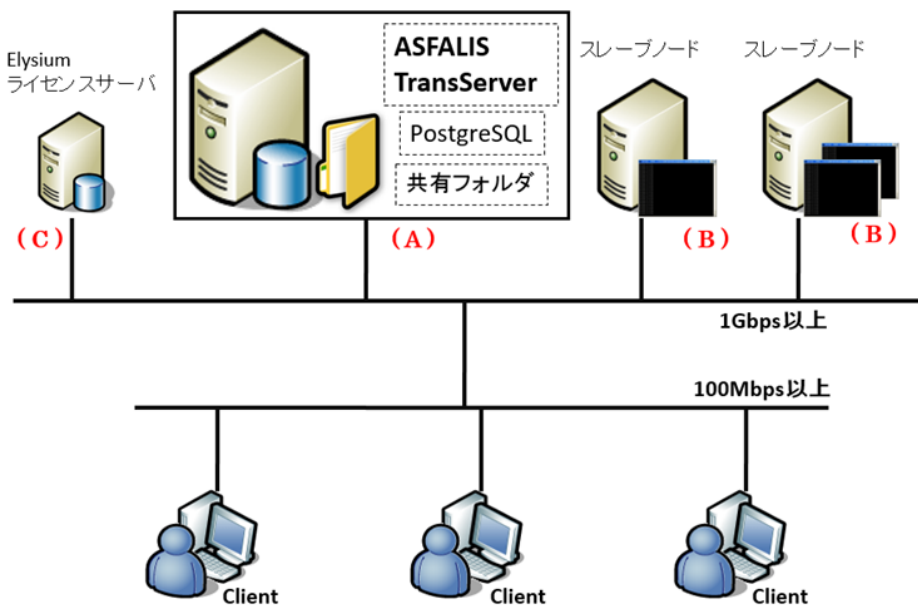
### 1.1.1. ネットワーク構成

推奨されるネットワーク構成は以下の通りです。

- パターン1:



- パターン2:



マシン(A)	ASFALIS TransServer, PostgreSQLをインストールします。
マシン(B)	ASFALISスレーブノードをインストールします。
マシン(C)	ライセンス管理プログラムをインストールします。 ライセンス管理プログラムは、マシン(A)または(B)にインストールしても構いません。

## 注意事項

- ASFALIS TransServerとスレーブノードは同じライセンスサーバを参照するようにしてください。
- ASFALIS TransServerが動作するコンピュータ(A)からスレーブノードが動作するコンピュータ(B)の名前を解決できる必要があります。また逆に (B)から(A)の名前も解決できる必要があります。
- ASFALIS TransServerは、参照するライセンスサーバ上のライセンスをすべて利用できることを前提にジョブの割り振りを行います。他のElysium製品や他のASFALIS TransServerも利用しているライセンスサーバを参照するように設定した場合、ジョブの割り振りを行う際にエラーが発生することがあります。

## 1.1.2. サーバおよびクライアントのシステム要件

### 推奨動作環境

- サーバ(ASFALIS TransServer)

	平均同時アクセス数 3以下	平均同時アクセス数 4～10
CPU	E5-24xx v2系, E5-26xx v2系 2.2GHz 4コア同等以上  E5-26xx v3系, E5-26xx v4系 2GHz 4コア同等以上  Xeon Silver 41xx系, Xeon Gold 51xx系 2GHz 4コア同等以上	E5-24xx v2系, E5-26xx v2系 2.2GHz 8コア同等以上  E5-26xx v3系, E5-26xx v4系 2GHz 8コア同等以上  Xeon Silver 41xx系, Xeon Gold 51xx系 2GHz 8コア同等以上
メモリ	8GB以上	16GB以上
ネットワーク接続	1Gbps以上	
アプリケーションサーバ のインスタンス数	10	30
OS	Microsoft Windows Server 2012 RTM Microsoft Windows Server 2012 R2 RTM Microsoft Windows Server 2016	

### 平均同時アクセス数について

「平均同時アクセス数」とは同時かつ継続的にWebアクセスを繰り返しても応答性能を維持できるアクセス数を指します。「平均同時アクセス数」はアクティブなユーザの数に依存します。アクティブなユーザの数はユーザの業務内容や曜日・時間帯により異なると考えられます。想定される状況の中で最も頻度が高くなる時間帯を基準に見積もってください。なお、ここで『同時』とする基準は『3秒以内』としております。

注): この数字は単純にASFALIS TransServerに登録されているユーザの数とは異なります。

#### 仮想マシンに **ASFALIS TransServer** を構築する場合の注意事項

ASFALIS TransServer は仮想マシンにインストールすることも可能です。ただし、その場合には仮想マシンが推奨動作環境に記載している性能を満たすように構成してください。仮想化ホストが要求性能を満たす CPU、ネットワーク帯域等を備えている環境であっても、仮想マシンへの割り当て量が制限されている等の理由で実際に使用できるリソースが要求性能を満たしていない環境はサポートの対象外となります。

#### • クライアント

CPU	Core2 Duo E6600同等以上
メモリ	1GB以上
ネットワーク接続	100Mbps以上
ブラウザ	Internet Explorer 11、Microsoft Edge、Google Chrome

## 1.2. ライセンス管理プログラムの導入

エリジオン製品のライセンスは、SafeNet社製のSentinel RMS License Managerによりライセンス管理されます。

以下のインストーラを実行して、Sentinel RMS License Managerを導入してください。導入手順の詳細は、Sentinel RMS License Manager セットアップ&クイックスタートガイドをご参照ください。

- [Sentinel RMS License Manager インストーラ]  
<ASFALIS TransServer インストールパッケージ>\license\_server\installer\setup.exe
- [Sentinel RMS License Manager セットアップ&クイックスタートガイド]  
<ASFALIS TransServer インストールパッケージ>  
\license\_server\document\LicenseServer\_QuickStartGuide\_ja.pdf

#### 必要なライセンス

製品	ライセンス		
ASFALIS Controller	ASF-ELYBATCH	ASF-CTRL1	ASF-CTRL2
ASFALIS TransServer	ASF-SERVER	ASF-TS/S	ASF-SRVR/C
	ASF-API/S (API, バッチ機能およびフォルダ監視機能を使用する場合必要)		

ASFALIS ControllerとASFALIS TransServer両方のライセンスが必要です。

## 2. 導入手順

### 2.1. 新規インストール

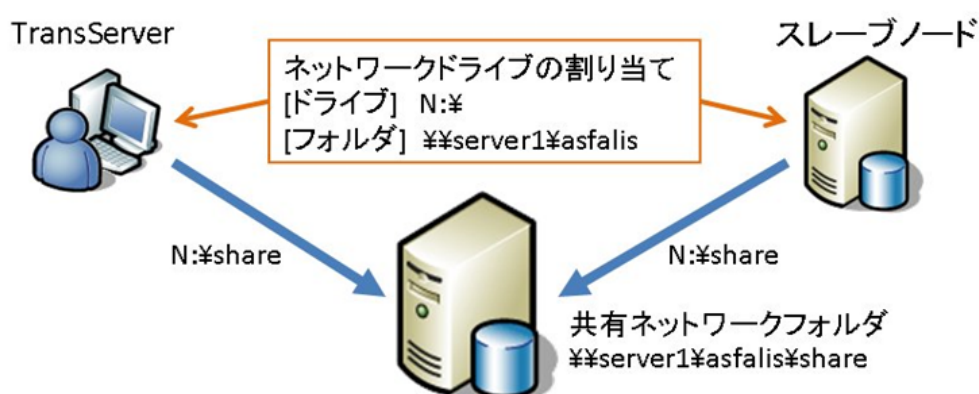
本章では、ASFALISスレーブノード、ASFALIS TransServerのそれぞれを新規に導入する手順を説明します。

#### 2.1.1. 共有ネットワークフォルダの設定

ASFALISスレーブノードをインストールしたマシンとASFALIS TransServerをインストールしたマシンは、一つのフォルダを同じパス(例. N:\share)で共有する必要があります。以下では、各マシンに共有フォルダを設定する方法を説明します。

共有ネットワークフォルダを設定する際、以下の点に注意してください。

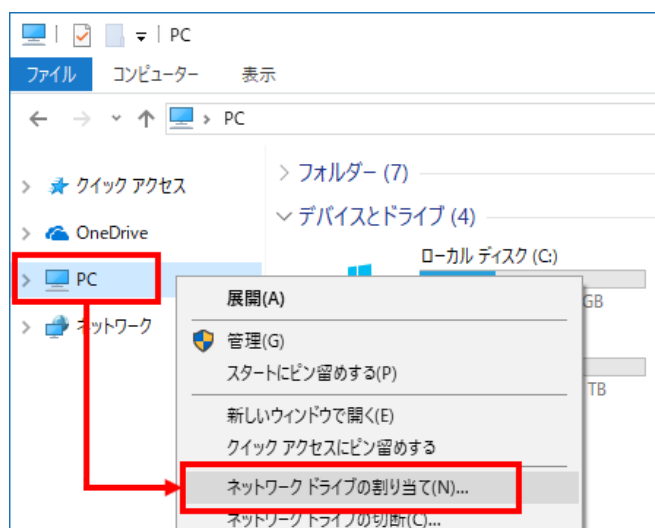
- データ処理時の出力フォルダやワークフォルダは共有フォルダの下に作成されるため、共有フォルダには 空き容量の大きなドライブを割り当てる必要があります。
- 共有フォルダには UNCパス(\\で始まるパス)を設定できません。
- ドライブのルートフォルダ("C:\"など)を共有フォルダにする事はできません。



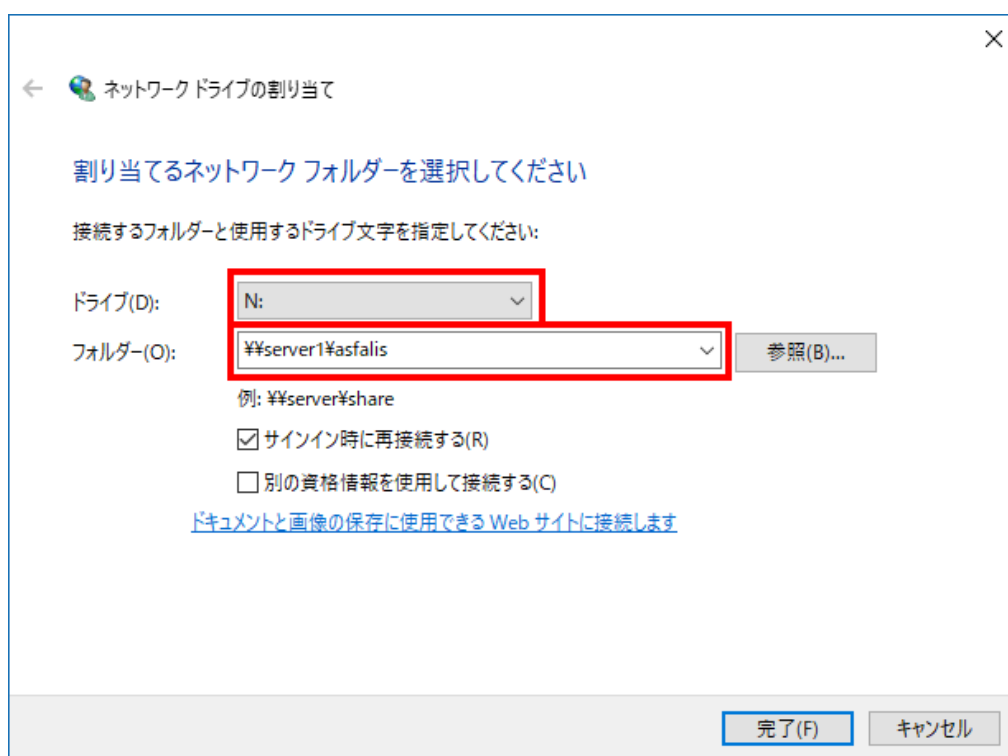
上の例では、server1というマシンのフォルダ"\\server1\asfalis\share"を共有フォルダとしています。ただし、共有フォルダにUNCパスを設定できないため、"\\server1\asfalis"というフォルダをNドライブに割り当て、"N:\share"というパスに変更してから共有フォルダとして使用しています。

UNCパスを任意のドライブに割り当てる方法

1. 「PC」を右クリックして、[ネットワーク ドライブの割り当て]を選択します。



2. ドライブ欄からドライブ名を選び、フォルダー欄に割り当てる予定のUNCパスを設定します。最後に[完了]ボタンを押します。



上記の設定は、ASFALISスレーブノードをインストールしたマシンやASFALISスレーブノードを使用する全てのマシンに対して行ってください。

### 2.1.2. .NET Frameworkの導入

ASFALIS EX7.0以前ではインストール時に自動で.NET Framework 4.5.2がインストールされていました。これに対しEX7.1以降ではASFALISのインストールに先立って.NET Frameworkの手動インストールが必要となる場合があります。ASFALISをインストールする環境の状況に応じた事前インストールの必要有無は以下の通りです。

1. .NET Framework 4.0～.NET Framework 4.5.1が導入されている環境



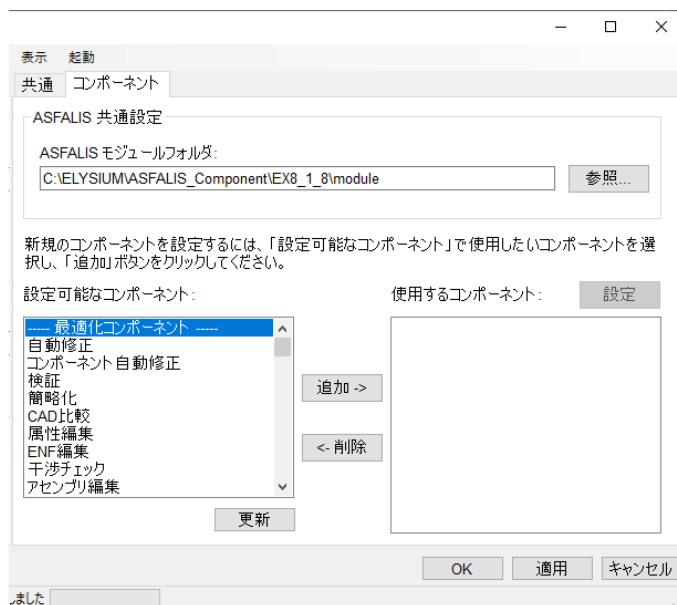
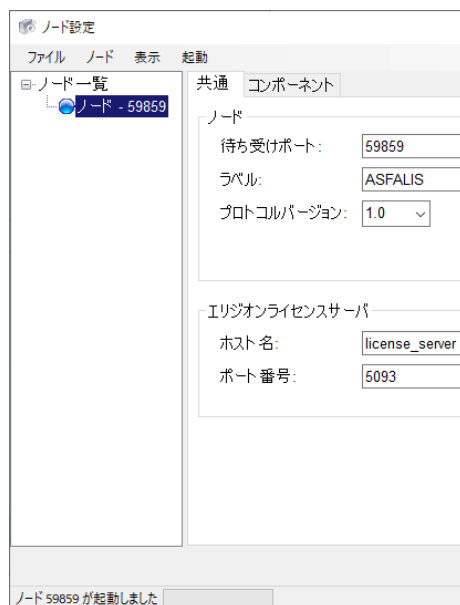
.NET Frameworkは自動でインストールされません。事前に以下のインストーラを実行して.NET Framework 4.5.2を手動でインストールしてください。

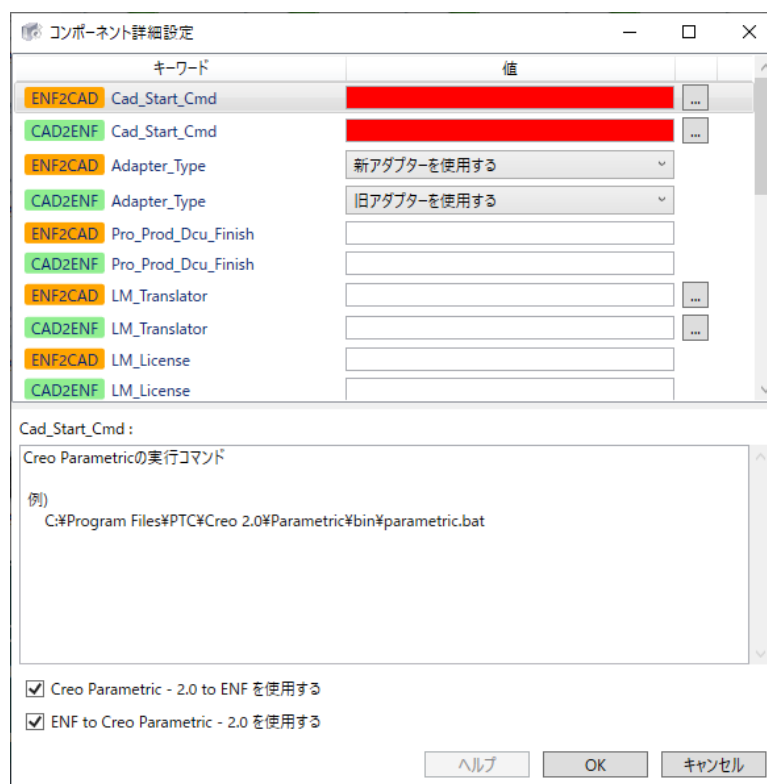
- <ASFALIS TransServer インストールパッケージ>  
 \Runtime\NDP452-KB2901907-x86-x64-AllOS-ENU.exe

2. .NET Framework 4.0以降が導入されていない環境  
 インストール時に自動で.NET Framework 4.5.2がインストールされます。事前作業は不要です。
3. .NET Framework 4.5.2以降が導入されている環境  
 事前作業は不要です。

### 2.1.3. スレーブノードの導入、設定

1. ASFALISスレーブノードのインストーラを実行して、スレーブノードをインストールします。  
 導入手順の詳細はASFALIS スレーブノードのインストールガイドをご参照ください。
  - <ASFALISスレーブノード インストールパッケージ>\setup.exe
  - [インストールガイド]  
 <ASFALISスレーブノード インストールパッケージ>\SlaveNode\_InstallationGuide\_ja.pdf
2. スレーブノードの設定を行います。
  - i. 設定ダイアログを起動します (\*\*の部分はバージョン番号が入ります)。  
 スタートメニューの[Elysium ASFALIS Component] > [ノードの設定 EX\*\*]
  - ii. 設定ダイアログで、使用するCAD、CADのバージョンとCADごとに必須なパラメータを設定して、[適用]ボタンを押します。詳細はASFALIS スレーブノードインストールガイドを参照してください。





主なCADの設定必須パラメータ

CAD	パラメータ	設定例
CATIA V5	Path_Translator	C:\CAD\Dassault_Systemes\B28\win_b64\code\bin
NX	Cad_Install_Dir	C:\CAD\UG\UGNX12.0
Creo Parametric	Cad_Start_Cmd	C:\CAD\PTC\Creo 3.0\Parametric\bin\parametric.bat
SOLIDWORKS	なし	-

- スレーブノードを起動します (\*\*\*) の部分はバージョン番号が入ります)。  
スタートメニューの[Elysium ASFALIS Component] > [ノードの起動 EX\*\*\*]

## 2.1.4. PostgreSQLの導入、設定

PostgreSQLを導入します。PostgreSQLのバージョンは10.\*を使用します。

- 下記ページからPostgreSQL 10.\* (Win x86-64)のインストーラをダウンロードします。
  - <http://www.enterprisedb.com/products-services-training/pgdownload>
- インストーラの指示に従ってPostgreSQLをインストールします。
  - インストーラは管理者でログインしてから実行してください。
  - PostgreSQLの導入フォルダ(C:\Program Files\PostgreSQL\10)をあらかじめ作成しておき、everyoneにそのフォルダに対するフルコントロールの権限を与えた後にインストーラを実行してください。
  - Select Components

"PostgreSQL Server" と "pgAdmin4" は必ずインストールしてください。

- Data Directory

デフォルトのパスはC:\Program Files\PostgreSQL\10\data となっていますが、OSのバージョンによってはProgram Files以下のフォルダにデータを格納すると問題が発生する場合があります。ドライブ直下にフォルダを作成しそのフォルダを指定してください。

例) C:\pgdata\10

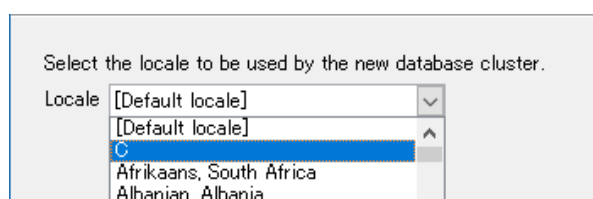
- Password

ここで設定した文字列を以下のファイルに平文で記述する必要があります。平文で記述して問題ない文字列を設定してください。

<ASFALIS TransServer導入フォルダ>\k2dashboard\config\database.yml

- Advanced Options

Localeプルダウンメニューから"C"を選択してください。



3. 導入完了後、端末を再起動してからWindowsのサービス一覧を開き、「postgresql-x64-10」もしくは「postgresql-x64-10 - PostgreSQL Server 10」というサービスがあることを確認します。サービスがあれば導入作業を続けます。

- サービス一覧は、Windows キーと R キーを同時に押すと表示される「ファイル名を指定して実行」ウインドウに「services.msc」と入力して OK をクリックすると表示されます。
- サービスがない場合は、PostgreSQLの導入に失敗していると考えられます。トラブルシューティングやインターネット上の情報を参考に、PostgreSQLの導入を成功させてください。

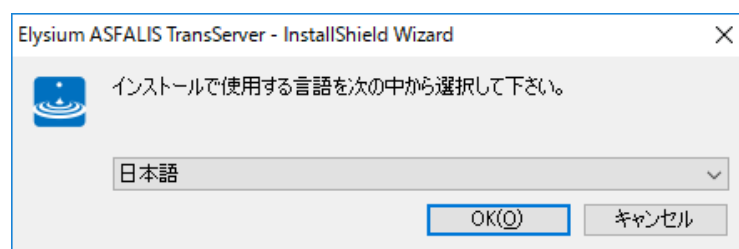
## 2.1.5. ASFALIS TransServerの導入、設定

以下の手順に従って導入、設定を行ってください。

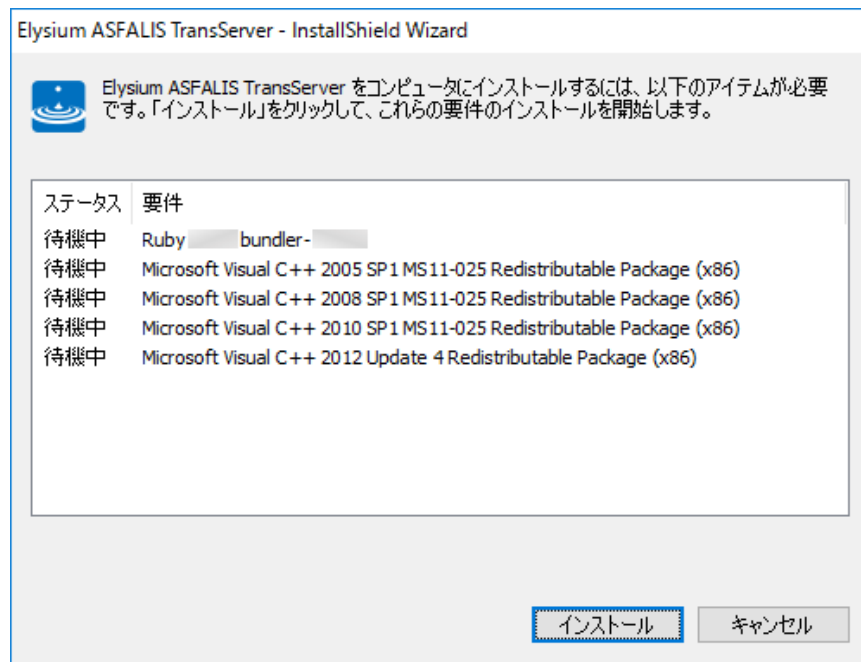
1. ASFALIS TransServerのインストーラを実行します。

- <ASFALIS TransServer インストールパッケージ>\installer\setup.exe

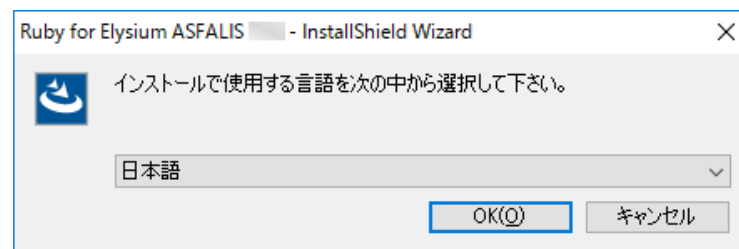
2. インストールで使用する言語を選択して[OK]を押します。



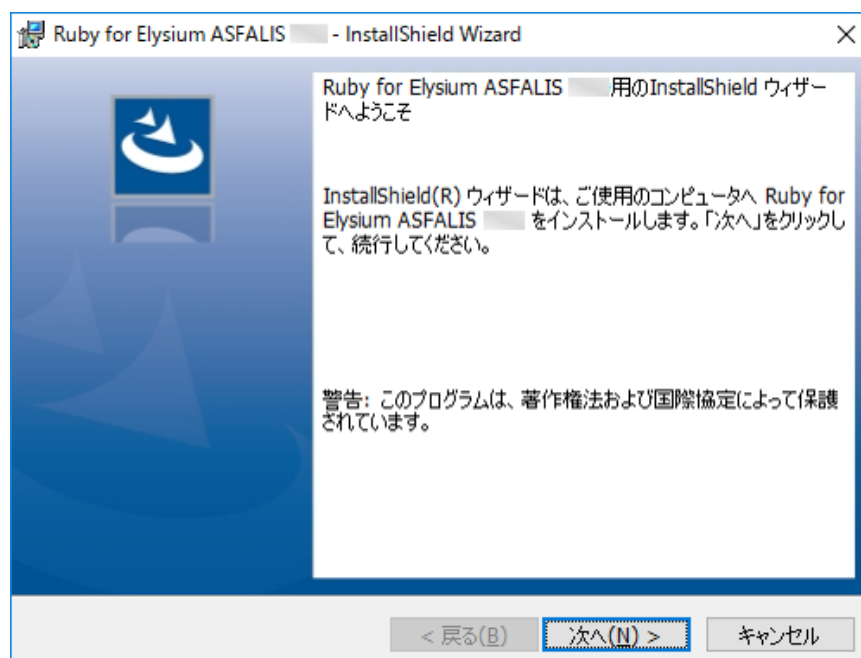
3. このダイアログが表示された場合、[インストール]ボタンを押しRubyのインストールを行います。(既にインストールされている環境では、このダイアログは表示されません。)



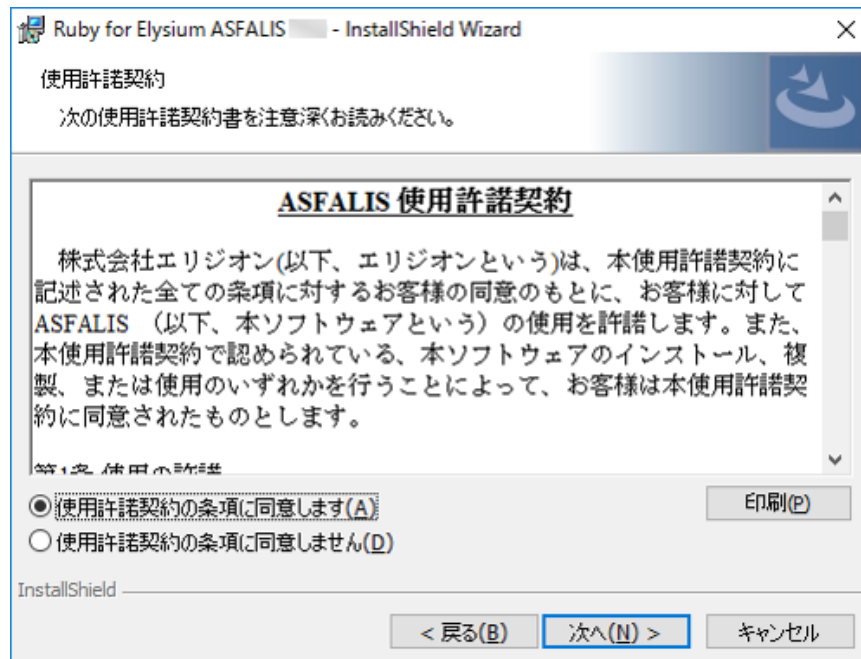
4. Ruby for Elysium ASFALISのインストーラが起動します。既にRuby for Elysium ASFALIS が導入されている場合は、11.へ進んでください。
5. インストールで使用する言語を選択して[OK]を押します。



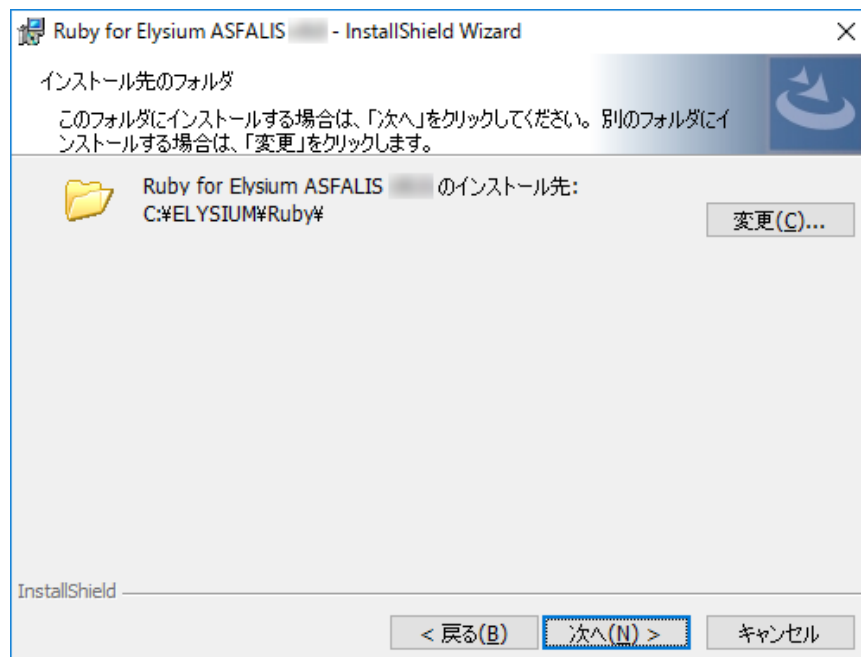
6. インストールウィザードが起動します。[次へ]を押します。



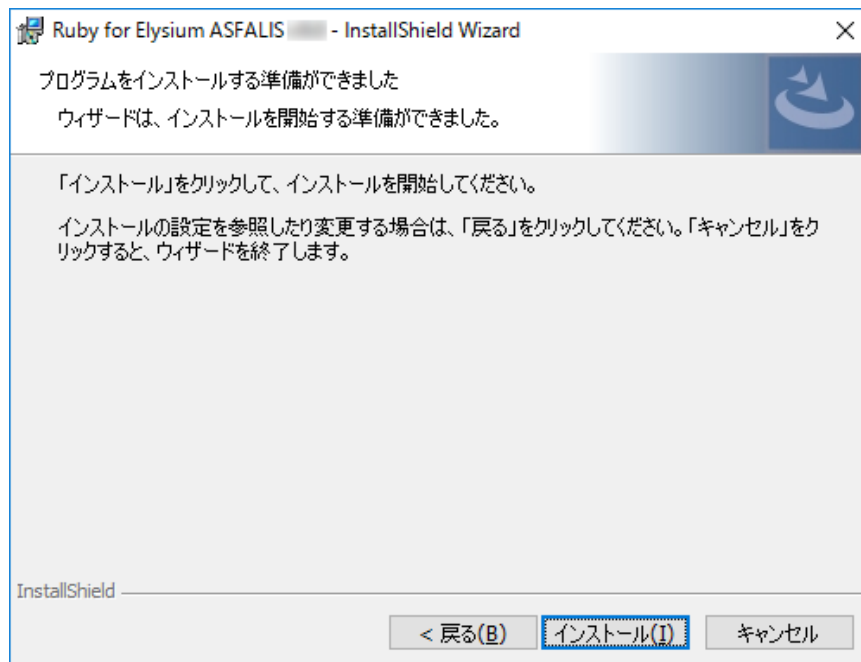
7. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合、「使用許諾契約の条項に同意します」を選択して[次へ]を押します。



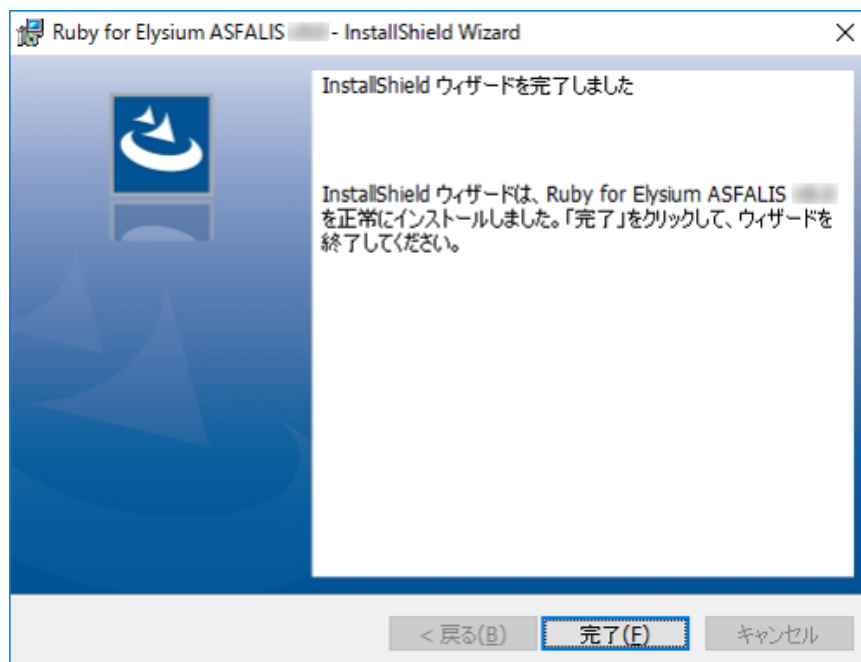
8. インストール先のフォルダを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更]を押して変更先フォルダを指定します。指定が完了したら、[次へ]を押します。



9. [インストール]を押してインストールを開始します。



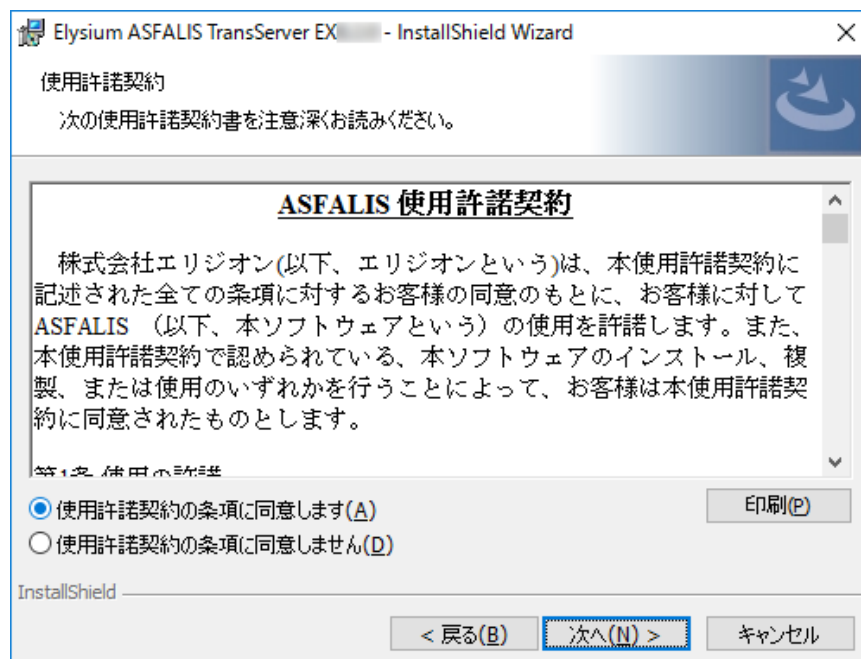
10. インストールが完了すると、以下のダイアログが表示されます。[完了]を押してRuby for Elysium ASFALISのインストーラを終了し、ASFALIS TransServerのインストーラに戻ります。



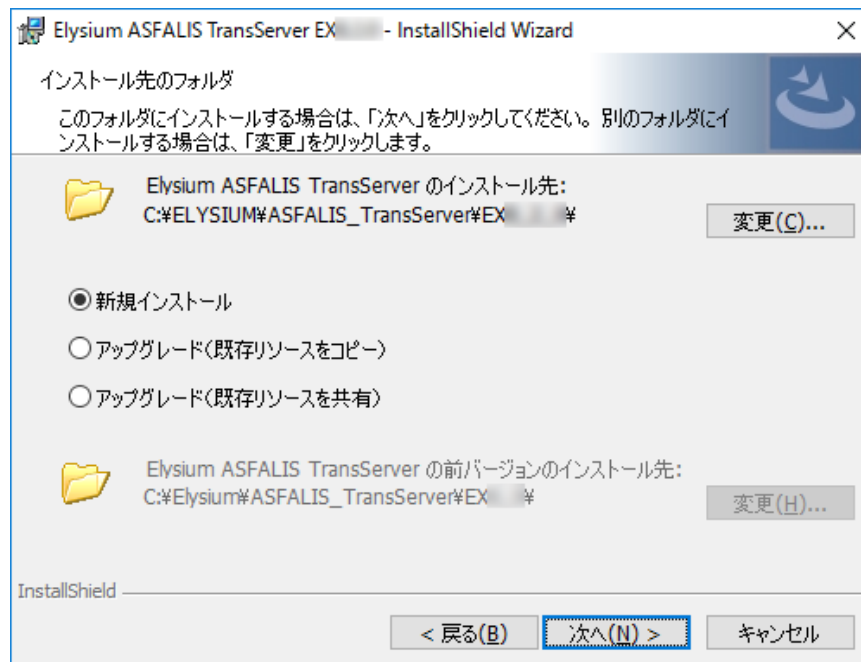
11. インストールウィザードが起動します。[次へ]を押します。



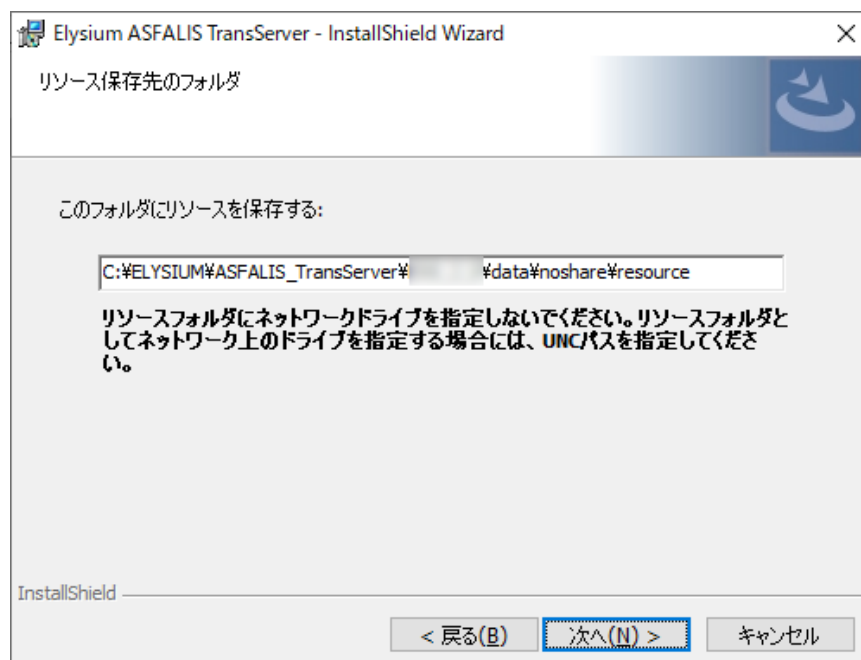
12. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には「使用許諾契約の条項に同意します」を選択して [次へ] を押します。



13. インストールフォルダを指定するダイアログが表示されます。必要に応じて画面上部「Elysium ASFALIS TransServerのインストール先」を変更します。新規インストールが選択されていることを確認し、[次へ] を押します。



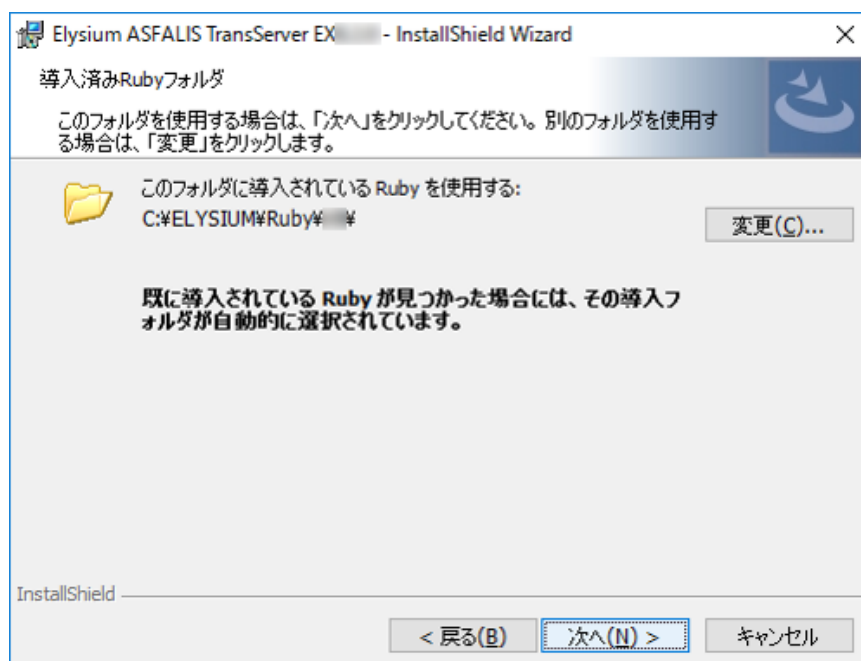
14. リソースの保存先フォルダを指定し[次へ]を押します。



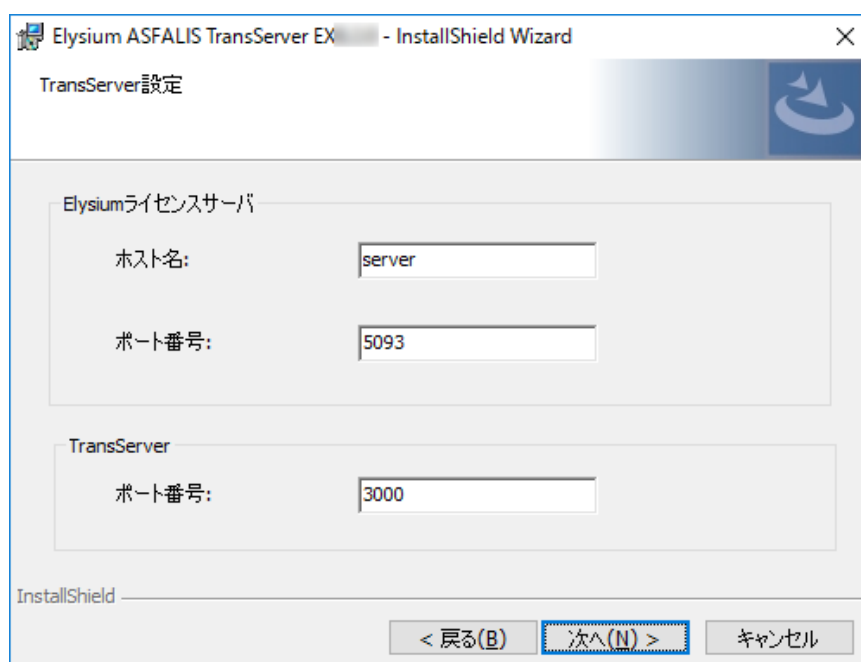
リソースフォルダにはローカルドライブのパスか UNC パスを指定するようにしてください。ネットワークドライブを含むパス (例 N:\transserver\resources) を指定した場合 ASFALIS TransServer が正常に動作しない場合がありますので、指定しないでください。

15. Rubyのインストールフォルダを指定し[次へ]を押します。

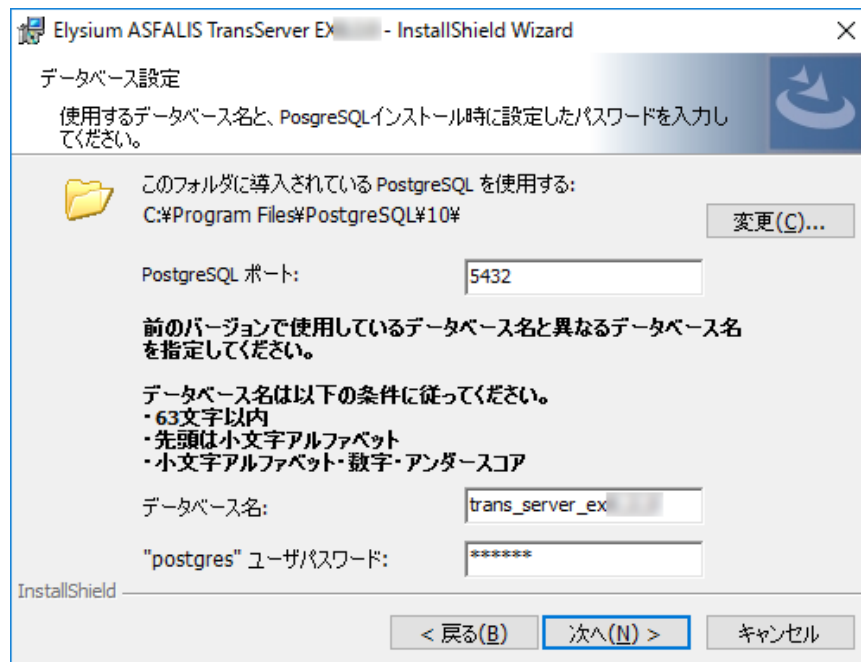




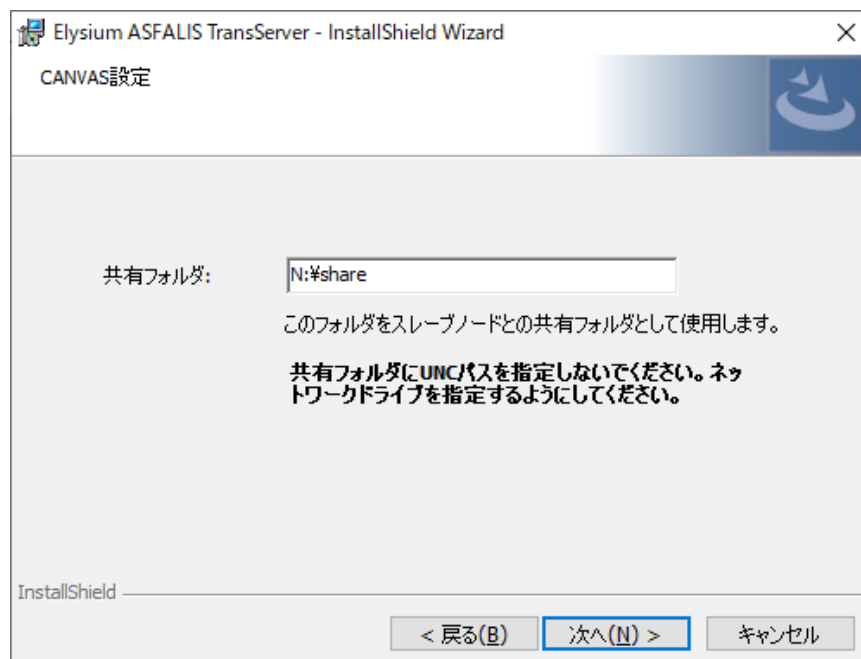
16. エリジオンライセンスが登録されているサーバ名とポート番号およびASFALIS TransServerが使用するポート番号を指定して[次へ]を押します。Elysiumライセンスサーバはスレーブノードと同じライセンスサーバを指定してください。



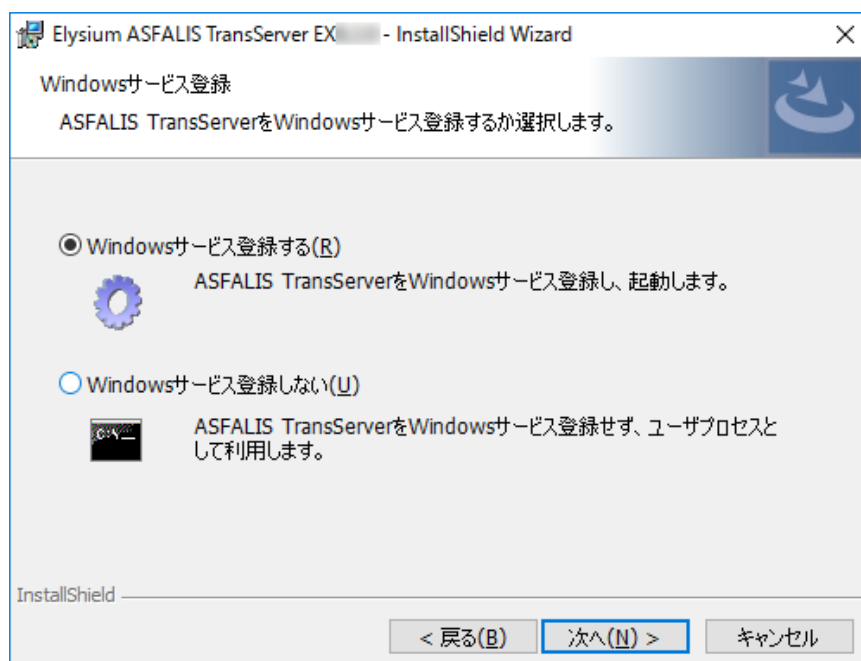
17. PostgreSQLポートとデータベース名、PostgreSQLの導入時に設定したパスワードを入力します。PostgreSQLポートはPostgreSQLの導入時に 5432 から変更していなければ、変更する必要はありません。データベース名の初期値としてtrans\_server\_ex\*\*\*が指定されています (\*\*\*)はバージョン番号)。通常は変更する必要はありませんが、初めてのインストールではなく、以前のデータベースが削除されていない場合は、過去に使用したことのないデータベース名を指定してください。



18. 共有ネットワークフォルダの設定で設定した共有フォルダを指定します。  
(例：N:\share)



19. Windows サービスとして登録するか否かを選択します。「Windowsサービス登録する」を選択した場合には、手順 20.に進みます。「Windowsサービス登録しない」を選択した場合には、手順 22.に進みます。



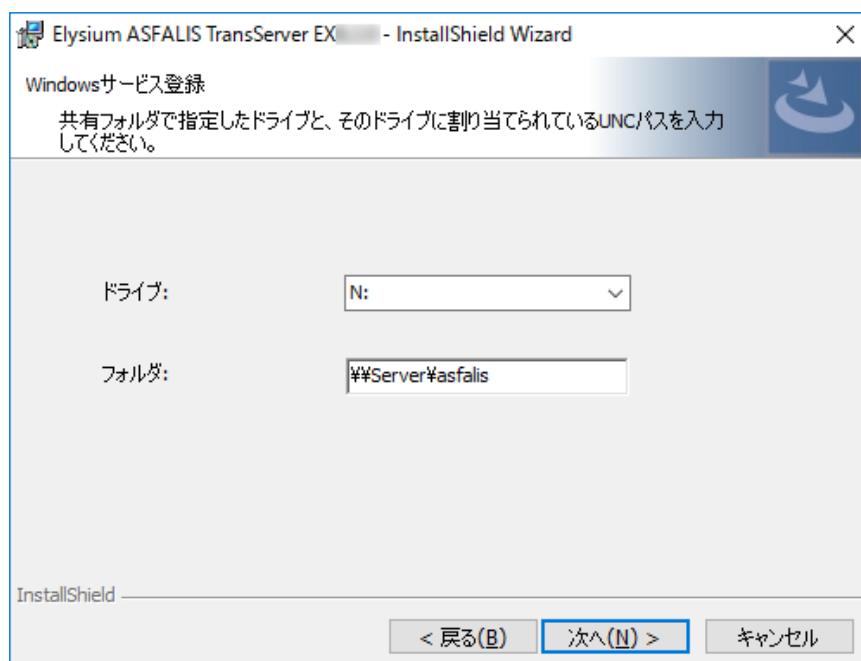
Windowsサービスとして登録する場合、コンピュータの起動に併せてASFALIS TransServer も自動的に起動するため、ユーザが対話的ログインを行って起動する必要がありません。

これに対しWindowsサービスとして登録しない場合、処理に関する情報がコマンドプロンプトに出力されるため、問題が発生した場合にはより多くの情報を得ることができます。

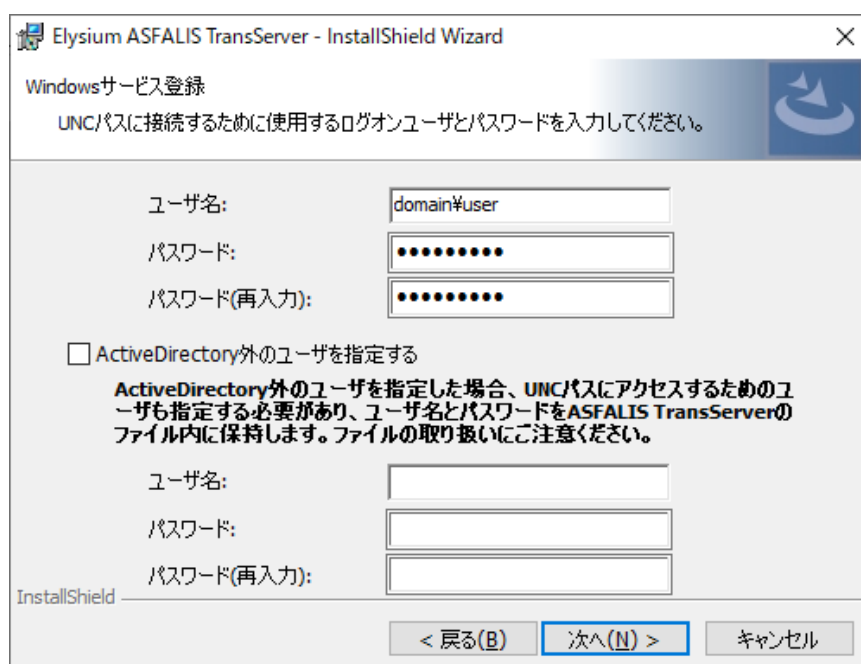
運用の一例としては、定常的に ASFALIS TransServer を稼働させる際にはサービスとして起動し、問題発生時の調査を行う場合や一時的な試験等を実施する場合には対話的ログインで起動するという方法が考えられます。

使用目的や想定される使用状況等を踏まえた上で、適切な方法を選択してください。

20. **共有ネットワークフォルダの設定**で共有フォルダを設定した際と同一の内容を設定して [次へ] を押します。



21. 共有ネットワークフォルダに対して読み取りおよび書き込みが可能なユーザのユーザ名とパスワードを入力して[次へ]を押します。Active Directory に登録されているユーザを指定する場合、画面下部の入力欄は空欄のままにしてください。



Active Directory が導入されていない環境にインストールする場合、および Active Directory に登録されていないユーザを使用する場合には "Active Directory 外のユーザを指定する" をチェックした上で、画面下部の入力欄に UNC パスに対する読み取りおよび書き込みの権限を持ったユーザのユーザ名とパスワードを入力してください。

Elysium ASFALIS TransServer - InstallShield Wizard

Windowsサービス登録

UNCパスに接続するために使用するログオンユーザとパスワードを入力してください。

ユーザ名: domain#user

パスワード: .....

パスワード(再入力): .....

☒ ActiveDirectory外のユーザを指定する

**ActiveDirectory外のユーザを指定した場合、UNCパスにアクセスするためのユーザも指定する必要があり、ユーザ名とパスワードをASFALIS TransServerのファイル内に保持します。ファイルの取り扱いにご注意ください。**

ユーザ名: domain#UNCUser

パスワード: .....

パスワード(再入力): .....

InstallShield

< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル

22. [インストール]を押します。インストールが開始されます。

Elysium ASFALIS TransServer EX - InstallShield Wizard

プログラムをインストールする準備ができました

ウィザードは、インストールを開始する準備ができました。

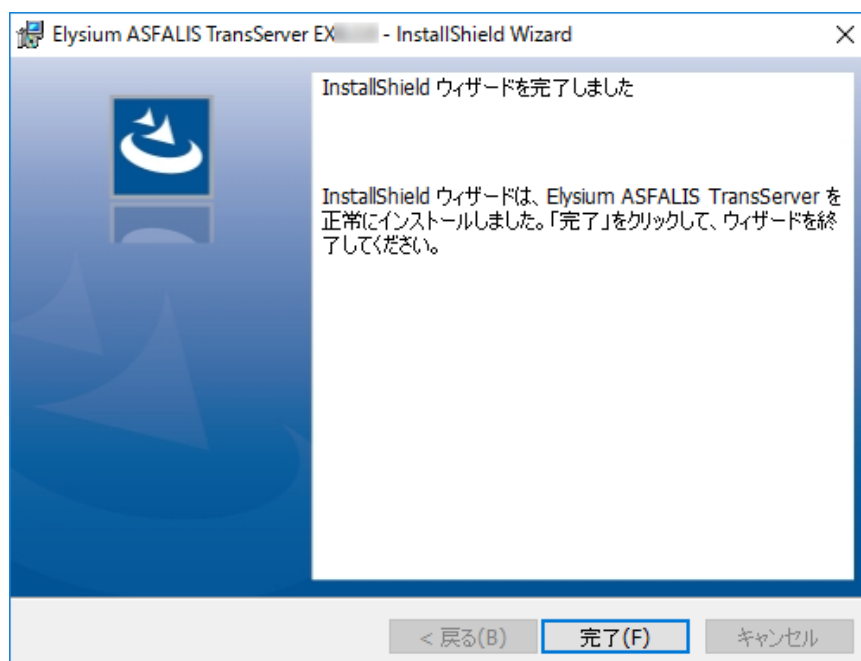
「インストール」をクリックして、インストールを開始してください。

インストールの設定を参照したり変更する場合は、「戻る」をクリックしてください。「キャンセル」をクリックすると、ウィザードを終了します。

InstallShield

< 戻る(B)    インストール(I)    キャンセル

23. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了]を押してダイアログを閉じます。

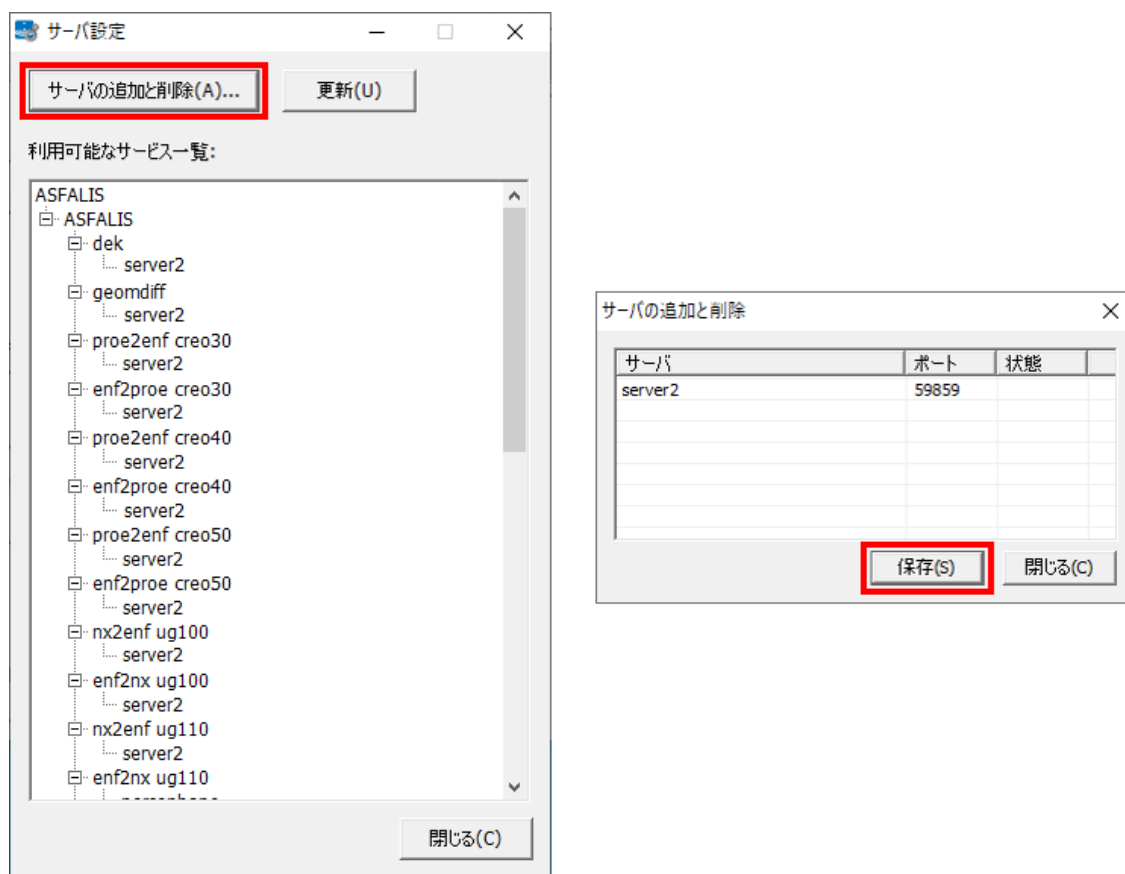


24. ASFALIS TransServer を Windows サービスとして登録した場合には、Windows のサービス一覧を開き、「ASFALIS TransServer Service EX\*.\*\*」というサービスがあることを確認します (\*\*. の部分はバージョン番号)。サービスが存在し、起動していればインストールは成功です。



- 。サービス一覧は、Windows キーと R キーを同時に押すと表示される「ファイル名を指定して実行」ウインドウに「services.msc」と入力して OK をクリックすると表示されます。
- 。サービスが起動していても ASFALIS TransServer を使用できない場合があります。そのような場合には、タスクマネージャーを起動して httpd.exe プロセスおよび nginx.exe プロセスが実行中であるかを確認してください。

25. スレーブノードの設定を行います (\*\*. の部分はバージョン番号が入ります)。
- i. スタートメニューの[Elysium TransServer] > [スレーブノード設定 EX\*\*.]を実行します。
  - ii. [サーバの追加と削除]を押して、サーバ(スレーブノード)を追加します。
  - iii. 追加後、[保存]ボタンを押してから[閉じる]を押します。



26. ファイアウォール経由の通信をプログラムに許可するよう設定します。

- i. [コントロール パネル] > [システムとセキュリティ] > [Windowsファイアウォール]を開きます。
- ii. 左側のウィンドウで、[Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する]を押します。
- iii. [設定の変更]を押し、以下のプログラムの通信を許可します。
  - Ruby :  
 <Rubyの導入フォルダ>\v9\rubies\ruby-2.6.5\bin\ruby.exe  
 (デフォルトではC:\ELYSIUM\Ruby\v9\rubies\ruby-2.6.5\bin\ruby.exe)
  - Apache HTTP Server:  
 <ASFALIS TransServerの導入フォルダ>\Apache\<Version>\Apache24\bin\httpd.exe
- iv. [OK]を押します。

27. ASFALIS TransServer実行ユーザに対するASFALIS TransServer導入フォルダのアクセス許可をフルコントロールに設定します。

## 2.1.6. 複数のスレーブノードの導入

「[Appendix A, 複数のスレーブノードの導入](#)」を参照してください。

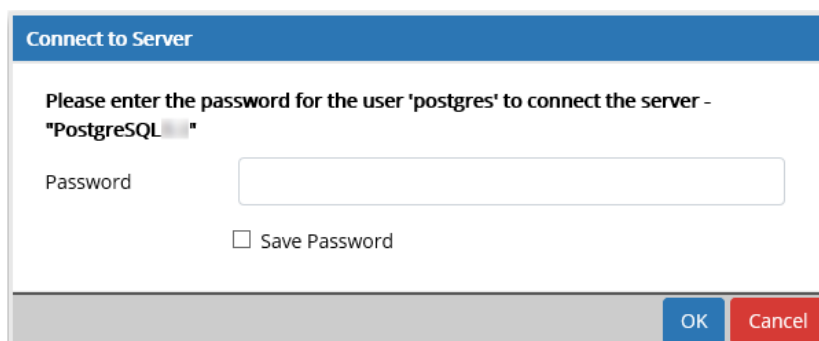
スレーブノードを5つ以上設定する場合、PostgreSQLの最大同時接続数を調整する必要があります。管理者マニュアルの「DBの最大同時接続数の設定」を参照し設定をおこなってください。

## 2.2. アップグレードインストール

本章では、ASFALIS TransServerをアップグレードインストールする手順を説明します。

### 2.2.1. インストール前の注意事項

- ASFALIS TransServer EX8.3.2 では、EX8.1 以降のバージョンからのアップグレードインストールに対応しております。現在 EX8.1 より前のバージョンをご利用の場合は、先に EX8.1 にアップグレードを行い、その後 EX8.3.2 へのアップグレードを行ってください。
- アップグレードインストールでは、現在ご使用のASFALIS TransServerの各種設定およびデータは自動的に引き継がれます。
- アップグレードによってアップグレード前の環境が影響を受けることはありませんが、万一に備えて事前にバックアップを行うことを推奨します。バックアップの方法は、管理者マニュアルの「バックアップ / リストア」をご参照ください。
- 事前に、%APPDATA%\postgresql\pgpass.conf にパスワードファイルが設定されている必要があります。以下の手順で設定/確認を行ってください。
  - pgAdmin 4 を起動します。Windowsのスタートメニューから [PostgreSQL 10.\*] > [pgAdmin 4]を選択します。
  - オブジェクトブラウザからPostgreSQL 10.\* (初期設定の場合、localhost: 5432)をダブルクリックします。"サーバーに接続"ダイアログが表示されますので、パスワードを入力し"パスワード保存"にチェックを入れ [OK]を押します。



既にパスワードが保存されている場合は、"サーバーに接続"ダイアログは表示されません。

- pgAdmin 4 を終了します。ASFALIS TransServerのインストールを行う際は、必ずpgAdmin 4 を終了させてから行ってください。
- アップグレードインストールを実施する際には、事前にASFALIS TransServerを停止してください。
  - 以前のバージョンの ASFALIS TransServer がサービスとして登録されている場合には、事前にサービスを停止して、"スタートアップの種類" を "手動" に変更してください。これは複数バージョンの ASFALIS TransServer サービスが同時に起動しないようにするためです。手順は以下の通りです。
    - Windows キーと R キーを同時に押して「ファイル名を指定して実行」ウインドウを開き、「services.msc」と入力して OK をクリックします。



2. 「ASFALIS TransServer Service EX\*\*\*」サービスを停止します。(\*\*\* の部分はバージョン番号です)
3. 「ASFALIS TransServer Service EX\*\*\*」サービスのプロパティを開き、"スタートアップの種類" を "手動" に変更します。
4. [OK] を押してプロパティを閉じます。
5. バージョンアップを実施します。

## 2.2.2. ASFALIS TransServerの導入、設定

以下の手順に従って導入、設定を行ってください。

1. ASFALIS TransServerのインストーラを実行します。  
<ASFALIS TransServer インストールパッケージ> \installer\setup.exe
2. Ruby for Elysium ASFALISのインストールおよびASFALIS TransServerインストーラの画面遷移は、新規インストールと同様です。
3. ASFALIS TransServerインストーラの「インストール先のフォルダ」画面では以下のように指定してください。

### 「Elysium ASFALIS TransServerのインストール先」

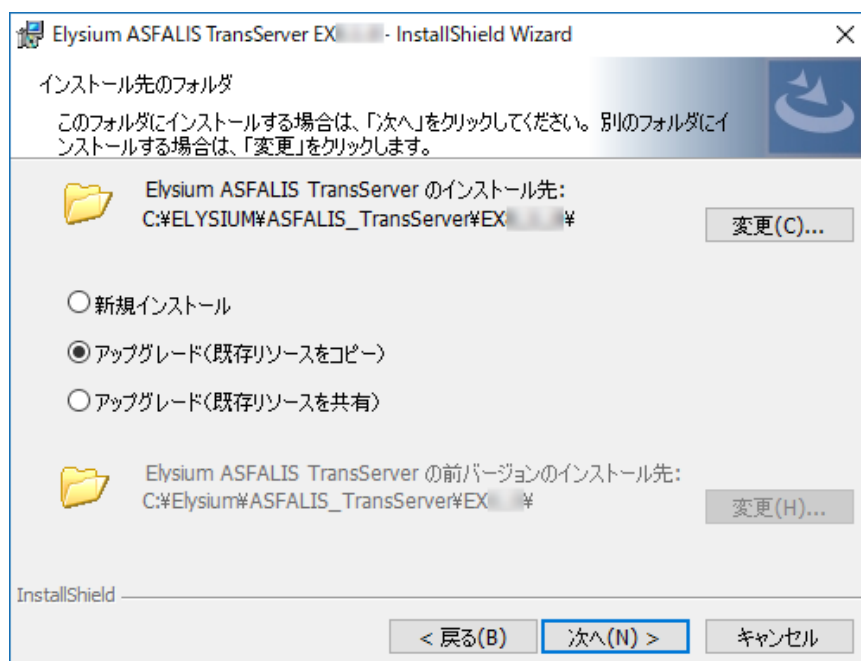
ASFALIS TransServerをインストールするフォルダを指定します。[変更]ボタンからフォルダを変更することができます。「Elysium ASFALIS TransServerの前バージョンのインストール先」とは異なるフォルダを指定してください。

### 「Elysium ASFALIS TransServerの前バージョンのインストール先」

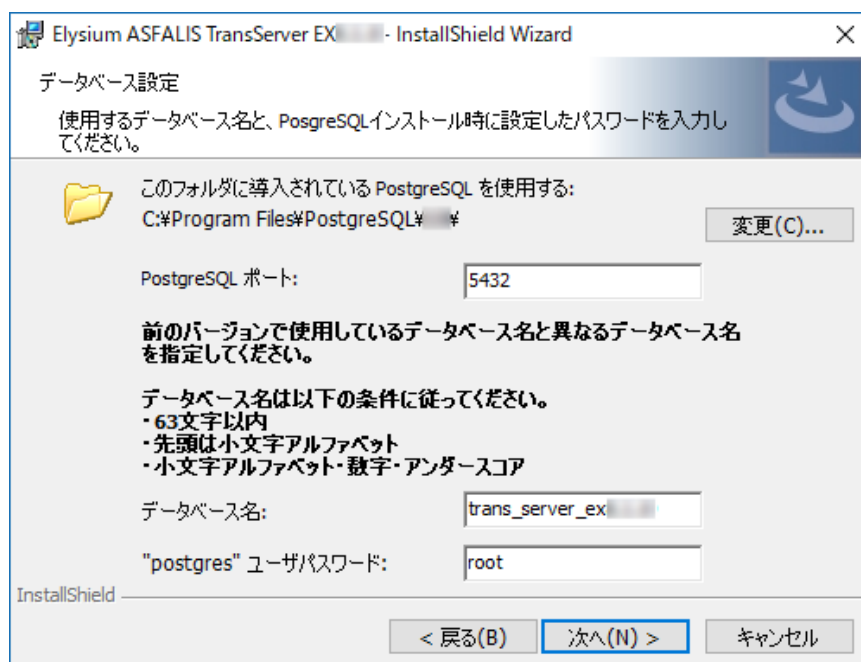
前バージョンのElysium ASFALIS TransServerをインストールしたフォルダを指定します。  
[変更]ボタンからフォルダを変更することができます。

アップグレード(既存リソースをコピー) または アップグレード(既存リソースを共有) を選択します。

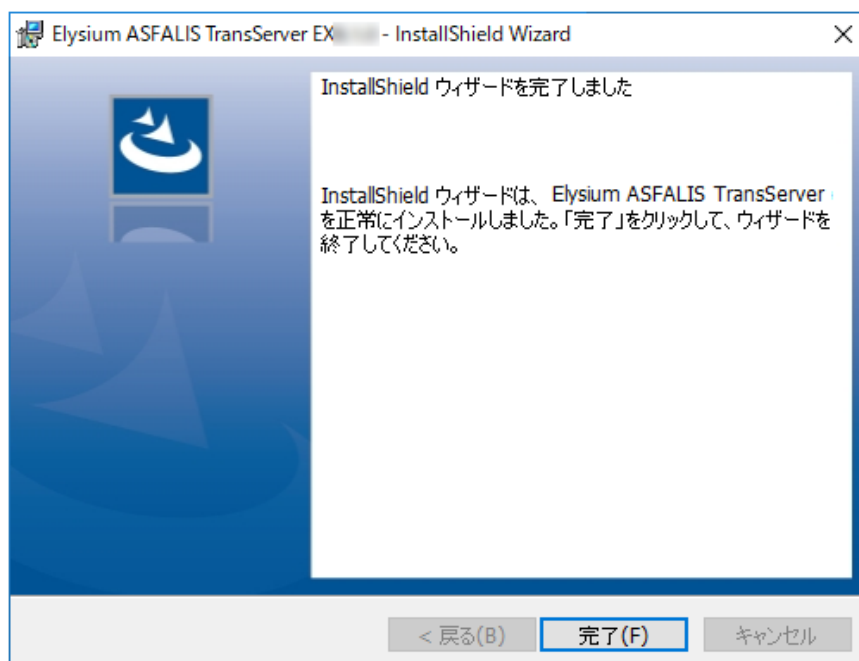
- 。アップグレード(既存リソースをコピー) の場合、 前バージョンのリソースをコピーして使用します。
- 。アップグレード(既存リソースを共有) の場合、 前バージョンのリソースをそのまま参照します。ディスク容量の制限等でリソースの保存先を変更している場合は、こちらを選択してください。



4. 「データベース設定」画面では、PostgreSQLポートとデータベース名、PostgreSQLの導入時に設定したパスワードを入力します。PostgreSQLポートには、利用するバージョンのPostgreSQLが起動しているポートを指定してください。データベース名の初期値としてtrans\_server\_ex\*\_\*が指定されています(\*\_\* はバージョン番号)。アップグレードインストールの場合は、必ず **過去に使用したことのないデータベース名を指定してください。**



5. 画面に従ってインストールを進めます。インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了]ボタンを押してダイアログを閉じます。



- Windows サービス登録を行う場合には、ネットワーク共有フォルダの情報を指定する際に、当該フォルダに対して読み取りおよび書き込みが可能なユーザのユーザ名とパスワードを入力してください。
- ActiveDirectoryが導入されていない環境でASFALIS TransServer をWindowsサービスとして登録する場合には、ウィザードの中で「Windowsサービス登録しない」を選択してください。その上で 2.1.5 の手順 28. に従って手動でサービス登録を実施してください。



Windowsサービスとして登録する場合、コンピュータの起動に併せてASFALIS TransServer も自動的に起動するため、ユーザが対話的ログインを行って起動する必要はありません。

これに対しWindowsサービスとして登録しない場合、処理に関する情報がコマンドプロンプトに出力されるため、問題が発生した場合にはより多くの情報を得ることができます。

運用の一例としては、定常的に ASFALIS TransServer を稼働させる際にはサービスとして起動し、問題発生時の調査を行う場合や一時的な試験等を実施する場合には対話的ログインで起動するという方法が考えられます。

使用目的や想定される使用状況等を踏まえた上で、適切な方法を選択してください。

6. ASFALIS TransServer を Windowsサービスとして登録した場合には、Windowsのサービス一覧を開き、「ASFALIS TransServer Service EX\*.\*」というサービスがあることを確認します(\*.\*はバージョン番号)。サービスが存在し、起動していればインストールは成功です。



- 。サービス一覧は、Windowsキーと Rキーを同時に押すと表示される「ファイル名を指定して実行」ウインドウに「services.msc」と入力して OK をクリックすると表示されます。
- 。サービスが起動していても ASFALIS TransServer を使用できない場合があります。そのような場合には、タスクマネージャーを起動して httpd.exe プロセスおよび nginx.exe プロセスが実行中であることを確認してください。

7. ASFALIS TransServer実行ユーザに対するASFALIS TransServer導入フォルダのアクセス許可をフルコントロールに設定します。

以上でインストール設定は終了です。

### 2.2.3. データベースの削除方法

アップグレード後に古いバージョンの ASFALIS TransServerデータベースを削除する場合は、次の手順に従います。なお、この作業はアップグレードインストールに必須ではありません。

1. Windowsのスタートメニューから [PostgreSQL 10] > [pgAdmin 4]を選択します。
2. オブジェクトブラウザから "PostgreSQL 10" (初期設定の場合 localhost:5432) をダブルクリックし、出現したダイアログにパスワードを入力します。データベースを開き、作成したデータベース名 (デフォルトではtrans\_server\_ex\*\_\*)。\*\_\* はバージョン番号) を右クリックし[削除/抹消]を選択します。

## 2.3. インストール後の設定変更

### 2.3.1. アプリケーションサーバのインスタンス数変更方法

同時利用ユーザ数に応じてアプリケーションサーバ数を変更してください。設定方法は管理者マニュアルの「アプリケーションサーバ管理設定のチューニング」を参照してください。

### 2.3.2. リソースの保存フォルダ変更方法

ディスク容量に応じてリソースの保存フォルダを変更してください。

1. ASFALIS TransServerを停止します。
2. 以下を実行してコマンドプロンプトを起動します。  
<ASFALIS TransServerの導入フォルダ>\k2dashboard\start-console.bat
3. 以下のコマンドを実行します。

```
bundle exec rake ats:resources:copy RESOURCE_PATH=(リソースの保存先に指定するフォルダのフルパス)
```

4. 変更前のリソースフォルダを削除します。

5. 以下のファイルをテキストエディタで開きます。  
< ASFALIS TransServerの導入フォルダ>\config\ k2server.ini
6. K2serverセクションにあるPrivateResourcePathの値を、リソースの保存先に指定するフォルダのフルパスに変更します。(\*)
7. ASFALIS TransServerを再起動します。

(\*) ここで指定した内容はバージョンアップを行う際に必要となります。何らかの方法で記録しておいてください。



リソースフォルダにはローカルドライブのパスか UNC パスを指定するようにしてください。ネットワークドライブを含むパス (例: N:\transserver\resources) を指定した場合 ASFALIS TransServer が正常に動作しない場合がありますので、指定しないでください。

### 2.3.3. ライセンスサーバの変更方法

ライセンスサーバを変更する場合はスレーブノード、ASFALIS TransServerそれぞれに対して以下の手順で設定を変更してください。

#### ASFALIS TransServer

1. テキストエディタで以下のファイルを開きます。  
<ASFALIS TransServer導入フォルダ>\set\_ruby\_env.bat
2. ELY\_SEC\_SERVER, ELY\_SEC\_PORTの値を新しいライセンスサーバにあわせて変更し上書き保存します。
3. ASFALIS TransServerを再起動します。

#### スレーブノード

1. スタートメニューから[Elysium ASFALIS Component] > [EX\*\*\*] > [ノードの設定]を起動します(\*\*\*の部分はバージョン番号が入ります)。
2. ノード一覧からノードを選択し、「共通」タブの「エリジオンライセンスサーバ」にてホスト名とポート番号を変更し、[適用]ボタンを押します。
3. スレーブノードを再起動します。

**ASFALIS TransServerとスレーブノードは同じライセンスサーバを参照するようにしてください。**

### 2.3.4. 共有ネットワークフォルダの変更方法

インストール時に指定した共有ネットワークフォルダのパスを変更したい場合には、以下の手順で設定を変更してください。共有ネットワークフォルダを設定する際の注意点は、[共有ネットワークフォルダの設定](#)を参照ください。

1. ASFALIS TransServerを停止します。
2. テキストエディタで以下のファイルを開きます。

<ASFALIS TransServerの導入フォルダ>\set\_ruby\_env.bat

3. "@set SHARED\_FOLDER="に続く部分の内容を変更します。
4. 変更内容を保存してテキストエディタを終了します。
5. ASFALIS TransServerを開始します。

また、ASFALIS TransServerをWindowsサービス登録しており、かつネットワークドライブの設定を変更している場合には、以下の手順も併せて実行してください。

1. ASFALIS TransServer サービスを停止します。
2. テキストエディタで以下のファイルを開きます。  
<ASFALIS TransServerの導入フォルダ>\config\k2server.ini
3. 以下の部分について値を変更します。  
SharedFolderDriveLetter=  
SharedFolderUncPath=
4. 変更内容を保存してテキストエディタを終了します。
5. ASFALIS TransServer サービスを開始します。

## 3. 起動手順

### 3.1. スレーブノード

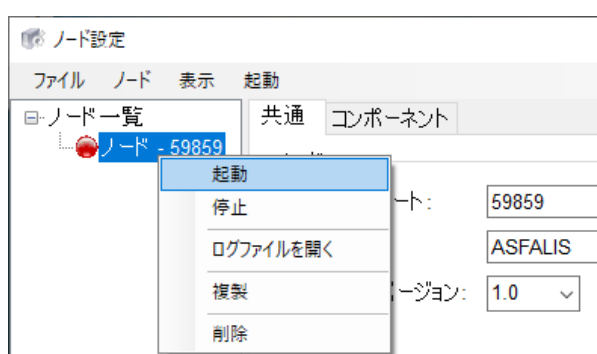
スレーブノードを起動します。

【プログラムメニューから起動する場合】

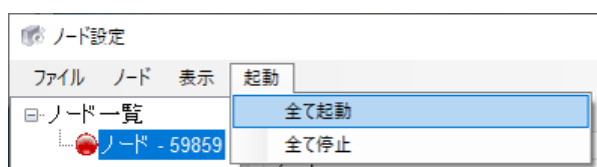
1. Windowsの[スタート] > [すべてのプログラム] > [Elysium ASFALIS Component] > [ノードの起動 EX\*\*\*] を実行してください(\*\*\*の部分はバージョン番号が入ります)。

【ノード設定ダイアログから起動する場合】

1. ノード一覧から起動したいノードを右クリックし、[起動]を選んでください。



2. メニューの[起動] > [全て起動]を実行することでもノードの起動を行うことができます。



「[Appendix A, 複数のスレーブノードの導入](#)」の手順で複数のスレーブノードを導入している場合、必要な全てのスレーブノードを起動します。

### 3.2. ASFALIS TransServer

**Windows サービスとして登録している場合**

ASFALIS TransServer サービスは OS 起動時に自動的に起動するように設定されています。特に作業は必要ありません。

正常に起動した場合、アプリケーションイベントログに ID 0 のイベントが記録されます。起動時に問題が起きた場合には、ID 818 のイベントや ID 819 のイベントが記録されます。

**Windows サービスとして登録していない場合**

スタートメニューの[Elysium TransServer] > [TransServerの起動 EX\*\*\*]を実行します。実行すると、以下のウィンドウが起動します。

- TransServer
- Kloggr
- Apache
- k2scheduler
- Rails <数字>



ASFALIS TransServer サービスが実行中の場合、スタートメニューから起動することはできません。



## 4. 起動後の設定

### 4.1. サーバ設定

クライアントマシンのブラウザから以下のアドレスを開き、管理者ユーザとしてログインします。

アドレス	http:// <TransServerマシン名> : <ポート番号(初期値:3000)>
	例) <a href="http://server:3000">http://server:3000</a>
初期アカウント	ユーザ名: admin パスワード: admin

[管理者機能] > [サーバ設定] から以下の項目を設定します。

	設定名	説明
1	system.default.timezone	ユーザ新規登録時に使われる既定のタイムゾーンです。
2	web.common.server_base_address	ASFALIS TransServer利用者向けの起点となるURLを設定します。
3	scheduler.error_mail.sender	Job実行に失敗した際に送信されるメールの送信者を指定します。
4	scheduler.error_mail_recipient	Job実行に失敗した際に送信されるメールの受信者を指定します。
5	system.monitor.error_mail_recipient	システム監視時に異常が発生した際に送信されるメールの受信者を指定します。
6	system.mail.smtp_server	メール送信用のSMTPサーバをFQDN(完全修飾ドメイン名)で設定します。
7	system.mail.smtp_port	メール送信用のSMTPポートを指定します。
8	system.mail.smtp_default_domain	メール送信時に使用するデフォルトのドメインを設定します。

## 5. 終了手順

### 5.1. ASFALIS TransServer

#### Windowsサービスとして登録している場合

サービス一覧から ASFALIS TransServer サービスを停止します。

正常に終了した場合、アプリケーションイベントログに ID 0 のイベントが記録されます。終了時に問題が起きた場合には、ID 818 のイベントや ID 819 のイベントが記録されます。

#### Windowsサービスとして登録していない場合

スタートメニューの[Elysium TransServer] > [TransServerの終了 EX\*\*\*]を実行します。

### 5.2. スレーブノード

ノードの設定ダイアログでノードを選択し、右クリック > [停止]を選択します。

## 6. アンインストール

本章では、ASFALIS TransServerをアンインストールする手順を説明します。

ASFALIS TransServerを再インストールする場合は、あらかじめデータベースの情報をバックアップしておき、再インストール後にリストアしてください。バックアップ、リストアの手順については別冊の「ASFALIS TransServer管理者マニュアル」をご参照ください。

### 6.1. ASFALIS TransServer

1. コントロールパネルの「プログラムのアンインストール」より、以下のプログラムをアンインストールします。事前に ASFALIS TransServer を停止してください。Windowsサービスとして登録している場合にはサービスを停止してください。
  - i. Elysium ASFALIS TransServer
  - ii. Ruby for Elysium ASFALIS  
同じマシンに他のASFALIS製品がインストールされており、その使用を継続する場合は、Rubyのアンインストールは行わないでください。
  - iii. PostgreSQL  
PostgreSQLをASFALIS TransServer以外の用途にも使用している場合は、ASFALIS TransServerのデータベースの削除を実行してください。  
データベースの削除手順は [2.2.3, “データベースの削除方法”](#)を参照してください。
2. アンインストールしたプログラムのインストールフォルダを削除します。

### 6.2. スレーブノード

1. コントロールパネルの「プログラムのアンインストール」より以下のプログラムをアンインストールします。
  - i. Elysium ASFALIS Components
  - ii. Ruby for Elysium ASFALIS  
同じマシンに他のASFALIS製品がインストールされており、その使用を継続する場合は、Rubyのアンインストールは行わないでください。
2. アンインストールしたプログラムのインストールフォルダを削除します。

# Appendix A: 複数のスレーブノードの導入

## A.1. 複数のスレーブノードの導入

スレーブノードを導入したい全ての端末に対してスレーブノードを導入します。

## A.2. 1台の端末に複数のスレーブノードを導入

1. スレーブノード設定ダイアログで一つ目のスレーブノードの設定を行い保存します。
2. メニューの[ノード] > [ノードの追加]または[ノード] > [ノードの複製]でスレーブノードの追加/複製を行います。
3. 追加/複製したノードについて各種設定を行い、[適用]ボタンを押します。

詳細はASFALIS スレーブノードインストールガイドを参照してください。

## Appendix B: トラブルシューティング

No	内容
1	<p><b>Slave Node / CATIA V5</b></p> <p>Windows 8.1 以降の環境のSlave NodeでCATIA V5変換用コンポーネントを使用するには、以下の実行モジュールに対してWindows ファイアウォール経由の通信を許可する必要があります。コントロールパネルから設定を行うか、スクリプト(firewall_add.bat)を管理者権限で実行してください。</p> <p><u>新アダプタ</u></p> <p>CATIA V5 to ENF実行時 : caa2fbt.exe ENF to CATIA V5実行時 : fbt2caa.exe</p> <p>スクリプトは以下のフォルダに存在します。 &lt;導入フォルダ&gt;\module\CADFeature\Batch\CatiaV5.x64\common\firewall_add.bat</p> <p>ファイアウォール例外設定を行わずに変換を実行すると、初回のみファイアウォールによるブロックを警告するダイアログが表示されます。「ブロックを解除する」を選択してください。</p> <p><u>旧アダプタ</u></p> <p>CATIA V5 to ENF実行時 : caa2enf.exe ENF to CATIA V5実行時 : enf2caa.exe</p> <p>スクリプトは実行モジュールと同じフォルダに存在します。 &lt;導入フォルダ&gt;\module\CaaExe\win\R&lt;version&gt;\firewall_add.bat</p> <p>導入フォルダがネットワーク上のフォルダの場合、例外指定するファイルパスにはネットワークドライブを使わずUNCパス(\\で始まるパス)で指定してください</p>

No	内容
2	<p><b>Slave Node / SOLIDWORKS</b></p> <p>旧アダプタ使用時に Windows の UACが有効になっている場合、下記手順でマクロを実行する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一時的にUACを無効にして端末を再起動する</li> <li>2. SOLIDWORKSを起動して[ツール] &gt; [マクロ] &gt; [実行]を選択し、下記のマクロファイル(load_addin.swp)を開く <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ &lt;導入フォルダ&gt;\module\SwExe\win\&lt;version&gt;\load_addin.swp</li> </ul> </li> <li>3. load_addin.swpを以下の通り編集してdllをフルパスにする  (変更前 例) Const sAddinName As String = "sw2nut.dll"  (変更後 例) Const sAddinName As String =  "C:\Elysium\ASFALIS_Component\EX*_*\module\SwExe\win\&lt;version&gt;\sw2nut.dll"    ("EX*_*" の部分にはバージョン番号が入ります)</li> <li>4. load_addin.swpを実行する</li> <li>5. SOLIDWORKSの[ツール] &gt; [アドイン]を選択してアドインウィンドウに「Sw2nutAddin」と表示されていることを確認する</li> <li>6. UACを有効に戻して端末を再起動する</li> </ol>
3	<p><b>Slave Node / SOLIDWORKS</b></p> <p>SOLIDWORKS変換用コンポーネントを使用する場合、あらかじめSOLIDWORKSを起動してテンプレートを指定しておく必要があります。</p>
4	<p><b>Slave Node</b></p> <p>Windows 8.1以降の環境でSlave Nodeを使用する場合は、管理者として実行してください。  (手順)  スタートメニューの[Elysium ASFALIS Component] &gt; [EX**] &gt; [ノードの起動]を右クリックして「管理者として実行」を選択します(**の部分はバージョン番号が入ります)。</p>
5	<p><b>Slave Node</b></p> <p>処理実行に失敗して、変換エラーコード-11 (エリジオンライセンスサーバに接続できない) が出力される場合、ライセンスサーバが起動していないかSlave Nodeのライセンス設定が間違っていることが考えられます。Slave Nodeのライセンス設定は、Slave Nodeの設定ダイアログから変更してください。</p>
6	<p><b>Slave Node</b></p> <p>処理実行に失敗して表示される詳細ログに「"****" is not defined」(***は失敗したサービス名) という記述がある場合、スレーブノード設定ダイアログの[更新]ボタンを押して、現在利用可能なサービスを確認してください。  (空欄の場合)  追加したSlave Nodeのサーバ名やポート番号が異なる。  Slave Nodeの設定ダイアログで一度も[保存]ボタンを押していない。  (空欄ではないが利用したい処理が無い場合)  CADが必要な処理であれば、Slave Nodeの設定ダイアログでCADの設定が必要。</p>

No	内容
7	<p><b>ASFALIS TransServer / Slave Node</b></p> <p>Windows 8.1以降の環境で処理が動かない場合、管理者ユーザでネットワークドライブの割り当てを行ってください。</p> <p>(手順)</p> <p>スタートメニューから[コマンド プロンプト]を右クリックして[管理者として実行]を選択する。プロンプトが起動したら下記のコマンドを入力する。</p> <div data-bbox="277 533 1426 667" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <pre>net use &lt;ドライブ名&gt; &lt;UNCパス&gt; &lt;管理者ユーザのパスワード&gt; /user: &lt;管理者ユーザ&gt;</pre> </div> <p>(例) net use k: \\pc1\asfaliss pass /user:aaa</p>
8	<p><b>ASFALIS TransServer / PostgreSQL</b></p> <p>ASFALIS TransServerの起動時にApacheが起動しない場合、PostgreSQLの導入に失敗している可能性があります。本マニュアルに記載している導入手順/注意点(2.1.4, “PostgreSQLの導入、設定”)に従い、PostgreSQLを再インストールしてください。</p>
9	<p><b>ASFALIS TransServer</b></p> <p>ファイアウォール経由の通信をプログラムに許可するよう設定してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[コントロールパネル] &gt; [システムとセキュリティ] &gt; [Windowsファイアウォール]を開きます。</li> <li>左側のウィンドウで[Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する]をクリックします。</li> <li>[設定の変更]ボタンをクリックし、以下のプログラムの通信を許可します。</li> </ol> <p><b>Ruby :</b>  &lt;Rubyの導入フォルダ&gt;\v9\rubies\ruby-2.6.5\bin\ruby.exe  (デフォルトではC:\ELYSIUM\Ruby\v9\rubies\ruby-2.6.5\bin\ruby.exe)</p> <p><b>Apache HTTP Server:</b>  &lt;ASFALIS TransServerの導入フォルダ&gt;  \Apache\&lt;Version&gt;\Apache24\bin\httpd.exe</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[OK]ボタンを押します。</li> </ol> <p>ASFALIS TransServer実行ユーザに対するASFALIS TransServer導入フォルダのアクセス許可をフルコントロールに設定してください。</p>

No	内容
10	<p><b>ASFALIS TransServer</b></p> <p>サービス管理ツールからASFALIS TransServer のサービスを起動した際、コンピュータの負荷が高い等の理由によりサービスの起動に時間がかかる場合に「エラー 1053: そのサービスは指定時間内に開始要求または制御要求に応答しませんでした。」というエラーが出力されることがあります。これはサービス管理ツールが出しているエラーであり、エラーが表示された後もサービスの起動は継続されます。しばらく待ってから表示を更新し、サービスの状態が「開始」もしくは「実行中」となることを確認してください。またタスクマネージャーの[サービス]タブから起動すれば、サービスの起動に時間がかかっても本エラーは出力されません。</p> <p>なお、長時間待ってもサービスが起動しない場合には、なんらかの問題が発生していると考えられます。サービスではなくスタートメニューから ASFALIS TransServer を起動して成功するか、ログになんらかの情報が記録されていないかをご確認ください。それでも問題が解決しない場合には、サポート窓口までご連絡ください。</p>
11	<p><b>ASFALIS TransServer</b></p> <p>タスクマネージャーの [サービス] タブから ASFALIS TransServer のサービスを再起動した際、サービスの停止に時間がかかることで、サービスの状態が「停止」から「開始中」に切り替わらない場合があります。この場合、停止状態のサービスを手動で起動してください。なおサービス管理ツールから再起動を行った場合には、サービスの再起動が正しく行われます。</p>
12	<p><b>ASFALIS TransServer / インストール</b></p> <p>.NET Framework 4.0～4.5.1がインストールされており他のアプリケーションが使用している場合、.NET Framework 4.5.2 のインストールに失敗したことを示すダイアログが表示されることがあります。インストールが失敗したように見えますが実際にはインストール自体は成功しています。アプリケーションのインストール完了後にマシンを再起動してください。</p>
13	<p><b>ASFALIS TransServer / インストール</b></p> <p>ASFALIS TransServerの起動時に、Apacheが起動しない、kloggrが起動しない等の問題が発生する場合、導入フォルダに対する ASFALIS TransServer 実行ユーザの権限が不足している可能性があります。所属するグループ経由ではなく、明示的に当該実行ユーザに対してフルコントロールのアクセス権を付与してください。</p>
14	<p><b>ASFALIS TransServer / インストール</b></p> <p>ASFALIS TransServerをインストールする際、リソースフォルダとしてネットワークドライブを指定するとインストールが失敗します。リソースフォルダとしてネットワーク上のドライブを指定する場合には、UNC パスで指定するようにしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* インストールが成功する例: \\server\transserver\Resources</li> <li>* インストールが失敗する例: N:\transserver\Resources</li> </ul> <p>(N: は server 上のフォルダをローカルドライブとしてマウントしたものです)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* インストール後もリソースフォルダにネットワークドライブを含むパス (例 N:\transserver\Resources) は指定しないでください。ASFALIS TransServer が正常に動作しなくなる場合があります。</li> </ul>
15	<p><b>ASFALIS TransServer / インストール</b></p> <p>インストール後にTransServerが正常に動作しない場合、使用するポートが別のアプリケーションと重複している可能性があります。その場合には、&lt;ASFALIS TransServer 導入フォルダ&gt;\config\k2server.ini に記述されているポート番号を変更してください。k2server.ini に設定されている既定のポート番号については、次ページの表を参照してください。</p>



- k2server.ini に設定されている既定のポート番号

プロセス	ポート番号 (既定値)	設定箇所
Apache (リバースプロキシ)	3000	[K2server]セクションのListenPort
Nginx (負荷分散、zip作成)	4002	[Nginx]セクションのListenPort
Rails (アプリケーションサーバ)	30000 30001 30002	[K2dashboard]セクションのBalancerMemberStartPort (BalancerMemberNumに指定された数だけポートを使用)
KLoggr (ログ記録)	3006	[Kloggr]セクションの ListenPort
K2server (統計情報記録)	50000	[K2server]セクションの BalancerMemberStartPort
MasterController (スケジューラプロセス監視)	3011	[K2scheduler]セクションの MasterControllerPort (*)
QueueController (ジョブのキュー管理)	3012	[K2scheduler]セクションの QueueControllerPort (*)
MiscWorker (バックアップ等)	3013	[K2scheduler]セクションの MiscWorkerPort (*)
ScriptComponentWorker (スクリプト実行)	3100, 3101	[K2scheduler]セクションの ScriptComponentWorkerPortStart (*) (ScriptComponentWorkerNumに指定された 数だけポートを使用)
PerSlaveNodeWorker (スレーブノードとの通信)	3200, ...	[K2scheduler]セクションの PerSlaveNodeWorkerPortStart (*) (スレーブノードの個数だけポートを使用)

(\*): 初期設定状態ではこの項目は存在しません。既定値が使用されます。明示的に指定する際には [K2scheduler]セクションを作成した上で追加してください。

本コンテンツに関わる著作権は株式会社エリジオンもしくは原権利者に帰属しています。  
著作権者の承諾なしに無断で改変、複製、転載、再配布、転送、公衆送信、販売、貸与などの  
行為をすることは禁じられています。